

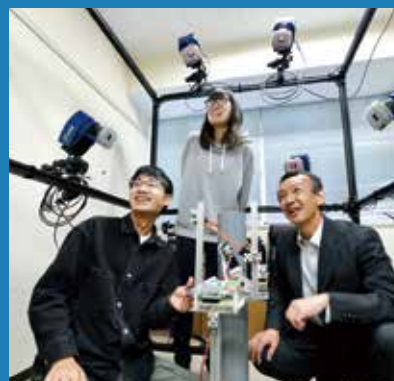
共生システム理工学類

Faculty of Symbiotic Systems Science



共生システム理工学類は、共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成することを教育目標に掲げています。この教育目標を実現するため、4つのコースを設定しています。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 情報理工学コース

■ メカトロニクスコース

■ 分子デザイン科学コース

■ 環境システムコース

こんな人に学んでほしい

共生を科学する新しい教育・研究システムのもとで、卒業までに次の4点を身につけたい学生を受け入れます。

- 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- 論理的で的確な立案力と決定力
- 学際的・国際的に実践する力
- 積極的かつ持続的な貢献意識

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

福島市小鳥の森 レンジャー NPO法人 野鳥の会ふくしま
共生システム理工学研究科 博士前期課程 環境システム分野 2015年修了

増淵 翔太さん

※勤務先は取材当時のものです。

福島其自然や 生きものたちの魅力を伝えたい。

「福島市小鳥の森」では環境教育と環境保全を柱としており、小学校などの団体利用の対応や、小学校を訪問して小鳥や自然の話をしたり、来園される方向けのイベント企画や自然についてお伝えしています。

大学2年の時に福島市内の川で水生昆虫の調査をする授業があり、子どもの頃に昆虫好きだった気持ちにスイッチが入り、昆虫の研究をしている研究室に入りました。卒業研究では裏磐梯の湖沼群に生息する底生動物相、大学院ではその過程で確認された未記載種のカゲロウの形態学、生態学的研究を行いました。大学では先生方に恵まれ、ほかの分野の先生方との交流も刺激になりました。今でも研究室



の先生に声をかけていただき、福島県内の昆虫や鳥類に関する情報提供などのお手伝いをしています。

虫や鳥に興味を持ってきて、5歳の時からここに通ってくれている子が小学4年生になりました。これからも生きものの楽しさや魅力を伝えて、自然好きな人たちを増やしていきたいと思っています。

卒業後の 主な進路

【情報理工学コース】

- ソフトウェア・情報通信業
- 製造業(ソフト設計、生産管理)
- 運輸・サービス業(分析部門)

【メカトロニクスコース】

- 電機・自動車・プラント関連製造業
- 医療・福祉機器関連製造業
- 電子・情報通信関連企業

【分子デザイン科学コース】

- 化学関連製造業
- エネルギー関連企業

【環境システムコース】

- 水・環境・防災関連企業
- 環境・建設コンサルタント
- 博物館の自然史系学芸員

【学類共通】

- 大学院進学
- 中学校・高等学校教員(理科・数学・情報)
- 国家公務員および地方公務員(技術職・総合職)

カリキュラムの特長

異分野の専門家と協働できる人材を育成するために

1年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミングなどを幅広く学び、2年次からは4つの専門コースに分かれて深く学びます。3年次後期からは研究室に配属され、各コースで学んだ知識を基に新しい知識を生み出す研究のプロセスを、教員や大学院生による指導・助言のもとで体験します。ここでは、自分と異なる分野の専門家と適切な討論を行えるようになることも重視されます。

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士(理工学)
- 中学校教諭一種免許状
(理科/数学 ※)
- 高等学校教諭一種免許状
(理科/情報/数学 ※)
- 学芸員資格

※数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。

資格試験受験の補助制度

福島大学共生システム理工学類後援会では、会員の1～4年生を対象に資格試験受験料を補助しております。

- 資格試験1種類につき、3,000円を補助
(3,000円以下の場合は半額補助)
- 年度内、1人3回まで補助可能

		1年次 		2年次 		3年次 		4年次 													
学びの目標		複数分野の理工系の基礎を学ぶとともに、諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養います。		コースの専門科目を学びながら、自分がどのような分野で活躍したいかを見つけ、必要な知識や経験を修得します。		より踏み込んだ専門的な知識・技能を修得するとともに深化させます。その上で、4年間の学びの集大成として「卒業研究」に取り組みます。															
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター					
		高校の学びを大学の学びに高め、諸課題をシステムの的に捉えるために、複数分野の理工系の基礎科目を学びます。		2年次の前期（3セメスター）から、4つのコースのいずれかに所属して専門領域を深く学びます。必要に応じて、社会科学系の科目を学ぶこともできます。						3年次後期（6セメスター）からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。											
専門教育		共通カリキュラムで複数分野を学ぶ		2年次前期からコース所属		情報理工学コース								3年次後期から研究室配属							
		学類専門科目				メカトロニクスコース															
		・共生の科学I				・線形写像と幾何I ・集合と位相I ・計算機システム論															
		接続領域科目				分子デザイン科学コース															
		・接続数学 ・接続理科				・物理化学 ・分析化学 ・化学実験I															
		学類基礎科目				環境システムコース															
		(1,2セメ) ・プログラミング基礎 ・物理学I・II ・化学I・II ・生物学 ・地球科学 ・数学I・II・III		(3セメ) ・環境放射能学概論		・水循環システム学概論 ・環境計画論 ・気象学															
		横断的に学問の面白さを学ぶための基礎内容を「接続領域科目」として学びます。さらに「学類基礎科目」を学ぶことで広い分野から自分の目指す専門分野を絞り込んでいきます。「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養います。				・物理工学 ・人間工学 ・量子力学															
						・高分子化学 ・再生可能エネルギーI ・化学実験III など															
						・森林生態学 ・保全生物学実験 ・サイエンスライティング演習(*8セメ) など															
基盤教育		接続領域		・スタートアップ科目 ・ライフマネジメント科目																	
				外国語コミュニケーション科目																	
				学術基礎科目 健康・運動科目 情報科目																	
		教養領域		外国語科目																	
						キャリア設計科目															
				・問題探究セミナー																	
		問題探究領域		問題探究科目 自主学修プログラム																	
自由選択領域		他学類の科目		海外演習																	



横断的に複数の分野で学問のおもしろさを学んで

自分の目指す専門分野を絞り込み知識を増やす。

学類長 メッセージ

Message

システム科学を 志向しよう

高度情報化社会への対応、人支援技術と産業の創出、カーボンニュートラルの実現、自然環境・災害・温暖化と社会との関わり、これらの課題に取り組むには、理学と工学、科学と技術、自然と社会をシームレスに俯瞰することが求められます。共生システム理工学類は、地球規模で顕在化している21世紀的課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を育成することを教育目標としています。

理工系人材として巣立った皆さんに社会から期待されているのは、データや論理に基づく丁寧な説明力と的確な判断力であったり、卓越する技能や実践力です。皆さんは、21世紀的課題あるいは学問的興味にどのような専門性を備えて取り組みますか。専門性を磨くと共に、広い視野をもち多面的に物事を捉える素養とシステムとして物事を捉える思考が諸課題の解決には欠かせません。

大学入学はゴールではなく、スタートです。皆さんと知的な創造活動を楽しみ、時には熱く、時には苦しくとも、最後までお付き合いします。



共生システム理工学類長 長橋 良隆 教授

教員紹介

2025年4月1日現在

情報理工学コース

石岡 賢 (技術経営、製品開発戦略、マーケティング戦略)
石川 友保 (ロジスティクス、オペレーションズ・リサーチ)
内海 哲史 (情報ネットワーク)
大沼 亮 (データ工学)
寛 宗徳 (経営工学、教育工学)
笠井 博剛 (非線形偏微分方程式論、応用数学)
ザビル サラウディン (情報ネットワーク、ネットワークセキュリティ、IoT、人工知能の応用)
董 彦文 (経営情報システム)
中川 和重 (非線形解析)
中村 勝一 (データ工学、教育工学、HCI)
中山 祐貴 (HCI)
西嶋 大輔 (環境システム分析、環境経済学)
長谷川 真吾 (暗号理論、情報セキュリティ)
樋口 良之 (経営工学、資源・廃棄物に関わる計画、管理、評価)
藤本 勝成 (非加法的集合関数、知能情報学)
三浦 一之 (アルゴリズム論、グラフ理論)

メカトロニクスコース

稲田 シュンコ アルバーノ (医用工学、光生物学)
衣川 潤 (ロボット工学)
島田 邦雄 (流体工学、エネルギー工学)
高橋 隆行 (ロボット工学、制御工学)
高原 円 (精神生理学、睡眠科学)
田中 明 (医用工学)
馬場 一晴 (素粒子の宇宙論)
松本 正晴 (計算科学)
山口 克彦 (物性物理学、放射線科学)

分子デザイン科学コース

浅田 隆志 (環境衛生科学、バイオマス資源学)
生田 博将 (無機固体化学、固体電気化学)
猪俣 慎二 (無機化学、有機金属化学)
岩村 振一郎 (化学工学、材料化学、電気化学)
大橋 弘範 (物理化学、X線γ線分光学)
大山 大 (合成化学、金属錯体化学)
杉森 大助 (生物学)
高貝 慶隆 (分析化学、分離化学、分子機能学)
高安 徹 (有機化学、構造有機化学)
中村 和正 (材料工学、材料物性、材料分析)

環境システムコース

兼子 伸吾 (保全生態学、分子生態学)
川越 清樹 (河川工学、水文学、防災工学、環境影響評価)
川崎 興太 (都市計画、まちづくり)
黒沢 高秀 (植物分類学、生態学、地域の植物相)
後藤 忍 (環境計画、環境システム工学、環境教育)
柴崎 直明 (地下水盆管理学、水文地質学、応用地質学)
筒井 雄二 (実験心理学、神経科学、災害心理学)
塘 忠顕 (昆虫の比較形態学、地域の昆虫相・カニムシ相)
長橋 良隆 (地質学、火山地質学、第四紀地質学)
永幡 幸司 (サウンドスケープ)
難波 謙二 (環境微生物学)
廣田 峻 (植物生態学、進化生態学、保全生物学)
横尾 善之 (流域水文学、水資源工学)
吉田 龍平 (気象学、応用気象学)

附属水素エネルギー総合研究所

大樂 武範 (核融合学)
宗像 鉄雄 (伝熱工学、エネルギー工学)
諸岡 哲朗 (電気化学、燃料電池、界面化学)

共生システム理工学類は、「共生」をテーマに現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、解決できる理工系人材の育成を目指しています。そのため1年次では、基盤教育に加え、数学、プログラミング基礎、物理学、化学、生物学、地球科学、共生の科学といった専門教育の基礎となる科目に力を入れます。幅広いジャンルの学問にふれ、実践的・体験的な学びを通して、自分の将来を見つめる視点も養います。

共生システム理工学類 履修基準表

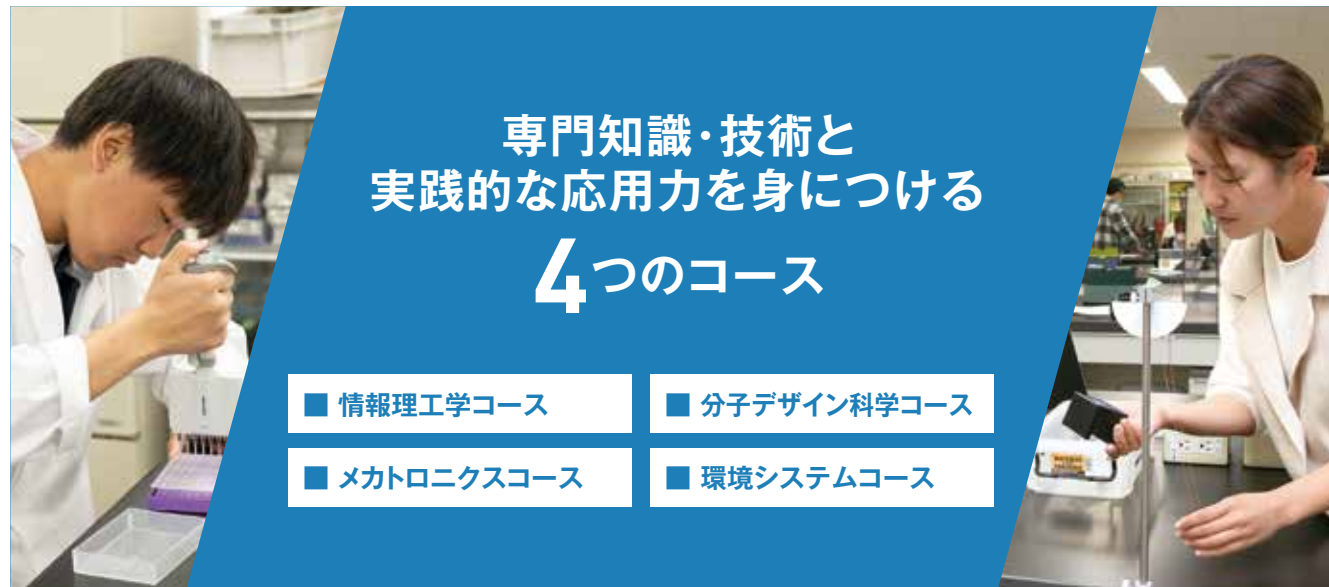
	領域区分	科目区分	開設科目等	履修 年次	セメスター	1科目 単位数	卒業要件 必修	卒業要件 選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	/
			社会とデータ科学の基礎	1	1	2	2	/
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	/
			健康運動科学実習	1	1	1	1	/
	教養領域	外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1~	1~	1	4	/
			人文科学分野の科目	1~	1~	2	2	7
			社会科学分野の科目	1~	1~	2	2	
		自然科学分野の科目	1~	1~	2	2		
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2~	3~	2	2	
			ワーキングスキル	2~	3~	1又は2	/	
		健康・運動科目	スポーツ実習	1~	2~	1	/	
			英語BⅠ・BⅡ	2~	3~	1	4	
	外国語科目	応用英語	1~	1~	1			
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1~	1~	1			
		英語以外の外国語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	1~	1~	1			
		英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2~	3~	1			
	問題探究領域	情報科目	情報リテラシー	1~	1~	2	/	
問題探究科目			1~	1~	2	2		
自主学修プログラム			1~	1~	1又は2	/		
問題探究セミナー		問題探究セミナーⅠ	1	2	2	2	/	
小計						34		
専門教育	学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	1	1	2	2	/
		接続領域科目	接続数学・接続理科	1	1	2	4	/
		学類基礎科目		1~	1~	2	4	10
	コース領域	学類専門科目	共生の科学Ⅱ	3	5	2	2	/
		コース基礎科目(必修)		2~	3~	2	12又は8*	/
		コース専門科目(選択必修)		2~	3~	2	/	28又は32*
	演習	演習	問題探究セミナーⅡを含む	2~	3~	1又は2	6又は2*	4又は8*
		演習Ⅰ・演習Ⅱ	3,4	6,7	2	4	/	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7,8	2	4	/
小計						80		
自由選択	自由選択領域						10	
全体	総計					124		

※所属コースにより科目区分における卒業要件単位数が異なります。

専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準

	領域区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター
学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	2	2	/	1
	接続領域	接続数学*	2	4	/	1
		接続理科*	2	/	/	1
	学類基礎科目	数学Ⅰ(解析学)	2	4	/	1
		プログラミング基礎	2	/	/	2
		物理学Ⅰ(力学)	2	/	10	1
		化学Ⅰ	2			1
		生物学	2			1
		数学Ⅱ(線形代数)	2			2
		数学Ⅲ(統計学)	2			2
		物理学Ⅱ(電磁気学)	2			2
		化学Ⅱ	2			2
		地球科学	2			2
		環境放射能学概論	2			3
	学類専門科目	共生の科学Ⅱ	2	2	/	5

※入学後の1年次前期に、高校での学びと大学での学びをスムーズにつなげるために、接続数学と接続理科の2科目を履修します。これらの科目では、高校での学習を振り返るとともに高校で履修しなかった科目の内容にも触れて、大学での勉学を進めるにあたり不可欠となる基礎的な知識を学びます。



専門知識・技術と
実践的な応用力を身につける
4つのコース

- 情報理工学コース
- 分子デザイン科学コース
- メカトロニクスコース
- 環境システムコース

情報理工学コース



数学やアルゴリズムなどの理論から、プログラミングを含めた情報システム設計・開発スキル、データ分析や問題発見が行える実践力まで、バランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。

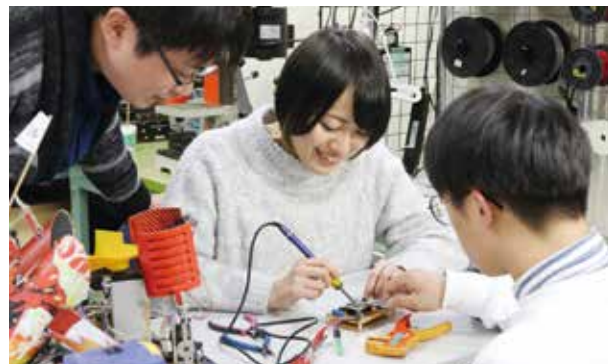
理論から、システム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに、生産技術や物流などITの社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

- ①多様な事象を的確にモデル化し、データを分析・活用するために必要な数学の基礎知識。
- ②計算機やコンピューターネットワークの仕組みを理解し、ソフトウェアシステムを設計・実装・運用する能力。
- ③ITの社会実装における問題を経営工学的な観点から自ら発見し、解決策を導く能力。

主な専門科目

- 線形写像と幾何I・II
- 集合と位相I・II
- 計算機システム論
- プログラミングI～III
- アルゴリズムとデータ構造I・II
- データベースシステム
- ソフトウェア設計開発論
- 人工知能と知識処理

メカトロニクスコース



物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、さまざまな分野で役立つ“技術”や“システム”の創出を担う研究者・開発者を育てます。

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、新機能を持つデバイスなどの要素技術や新たな測定手法、ロボティクスや生体医工学における制御技術・数値シミュレーション・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

- ①物理を基本とする工学的知識の理解。
- ②物事・人・現象などをシステムとみなしてモデル化する方法の理解と応用。
- ③人の生活に役立つものづくりのための設計と製作技術の修得。

主な専門科目

- 数理モデリング
- 電気回路
- 制御工学
- 材料力学
- 人間工学
- 量子力学
- 神経・生理心理学
- 物理学実験 など

分子デザイン科学コース



物質・材料関連分野について、化学に関するさまざまな講義や実験を通して体系的に学ぶことで、先進的でクリエイティブな化学系人材を育成します。

高機能で環境負荷の少ない新しい物質や材料を生み出すために、また新しい省エネ・創エネ・蓄エネなどのエネルギー技術の開発のために、化学実験をはじめとする様々な「化学」を学びます。これを基に、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルで物質や材料を捉え、現代社会における諸課題を解決するための最先端の研究に取り組みます。

- ①化学に関する体系的な基礎知識と応用力の修得。
- ②実験や機器分析を重視した研究手法の修得。
- ③化学的なアプローチによって、現代社会における諸課題を解決する方法を提案し、自らの行動できる力を修得。

主な専門科目

- 物理化学
- 有機化学
- 無機化学
- 分析化学
- 機器分析
- 化学工学
- 資源・エネルギー工学
- 化学実験I～IIIなど

環境システムコース



自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築に関して、実践的かつ技術的に対応できる人材や、教育・普及に専門的に携わることのできる人材を育成します。

環境をシステムとして多面的、体系的にとらえるために、環境に関する諸問題を、文理の垣根を越えて実践的に学び、研究するコースです。地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に計画・管理する能力を養うための学修・研究を行います。

- ①さまざまな分野で利用される地球科学、生物学、環境学の基礎的な知識。
- ②多彩で豊富な実験や野外実習で修得する、地球環境や多様な生物、環境問題を調査する能力。
- ③自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築などに関する調査・分析の技術やこれらを計画・管理する能力。

主な専門科目

- 生物・地球環境システム概論
- 水循環システム学概論
- 環境保全論
- 環境計画論
- 地球環境科学実験
- 保全生物学実験
- 社会計画演習
- サイエンスライティング演習

在学生からのメッセージ

Student's Message

数理・情報科学コース 4年〔宮城県白石高等学校出身〕 十文字 快さん

※学年は取材当時のものです。

共生システム理工学類では1年次で基礎科目を学び、2年から専門領域のコースに分かれます。僕は高校の時は大学で化学を学ぼうと考えていたのですが、入学後にほかの分野に触れ、数理・情報のほうに惹かれてこちらに進みました。やりたいことを吟味する時間があつたのは良かったと思っています。

3年の後期から藤本研究室に配属して、機械学習について学んでいます。4年では機械学習を使って、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた研究を行います。実際のデータを分析して研究ができることは、地域に根差した福島大学ならではの学びだと思います。

入学後に広がった
知識から未来が
生まれる



水素エネルギー総合研究所

Hydrogen Energy Research Institute



福島県の重点課題の一つである水素・再生可能エネルギーに関する教育研究を推進するため、令和6年度より「水素エネルギー総合研究所」を共生システム理工学類の附属研究所として設置しました。

この研究所では、水素を中心とした再生可能エネルギーの製造・貯蔵・輸送・利用・管理という一連のエネルギー循環を強く意識した研究を行うため、以下の2部門4グループを組織します。あわせて、共生システム理工学類の学生教育にも積極的に参画し、関連産業に携わることのできる高度な専門人材を育成します。

【エネルギー地産部門・エネルギー製造グループ】

福島県内の豊かな自然資源を活用した水素製造技術の開発や、地球内部を起源とする新たな水素源の探索を行います。

【エネルギー地産部門・エネルギー貯蔵グループ】

水素をより安全かつ簡単に貯蔵・輸送するための「水素キャリア」への分子変換技術や、水素を物理的に貯蔵・輸送するための高強度複合材料等を開発します。

【エネルギー地産部門・エネルギー活用グループ】

水素需要の主流となる燃料電池や小規模水素発電・水素ボイラー等に関連した要素技術や、発電に伴う廃熱回収システム等を開発します。

【エネルギー地産部門・エネルギーマネジメントグループ】

水素の需給予測や各種設備の最適化等のマネジメント技術を開発します。また、水の電気分解による水素製造に不可欠な水資源管理、水素社会実現に向けた社会実装を県内自治体と連携して推進します。

環境放射能研究所 (IER)

Institute of Environmental Radioactivity

環境放射能の先端研究・教育拠点



大気、森林、農地、河川湖沼、海洋等の環境・生態系における放射性物質の物理、化学、生物作用による動態および動植物への放射線影響、さらにこれらの基盤となる分析、計測、シミュレーション技術の開発や被曝防護で研究と教育を行っています。福島県環境放射能の課題について取り組み、国際協働による海外への情報発信を目指す研究を通じて、これらを担う研究者や技術者等の育成教育を行っています。

特修プログラム

特定のテーマに沿った特修プログラムを設定しています。
必要な単位を修得することにより、各プログラム修了の認定を受けることができます。

■ 放射線科学専修プログラム



原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したプログラムです。「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位修得を課しています。

■ 水素・再生可能エネルギー専修プログラム



水素・再生可能エネルギーに関する理工系的な知識修得を目的とした科目を多数設定し、複数のコースを横断した幅広いエネルギー教育を提供するプログラムです。

■ 実践情報工学プログラム



学士課程から大学院までの学修を通して、情報工学に関する基本的な実践力を有した人材の育成を目指したプログラムです。そのために、大学院進学希望者を対象として、1) 情報工学に関する基本的な知識・実践力、2) 学士課程の段階から大学院での学びや修了後の活躍像を含めた志望分野に応じた視野を獲得するとともに、本プログラム受講者を希望コースに優先所属するインセンティブが与えられます。

■ 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム



自然環境を土台としつつ多様な視点で地域を捉え、地域素材を用いた教材開発の手法や指導法をプロジェクト学習や問題解決型学習などを通じて学ぶプログラムです。小・中学校における経験を通じて子どもが持つ考え方や問題意識を学ぶほか、科学館等の施設における経験を通じて、子どもと保護者、地域における科学活動に対する理解を深め、地域の理科の先生に必要とされる資質・能力の総合的な修得を目指します。

在学生からのメッセージ

Student's Message

共生システム理工学類 物理・メカトロニクスコース 1年 福島県立郡山東高等学校出身

熊田 有華さん

※学年は取材当時のものです。

小学校高学年の時に震災と原発事故があり、放射線について学びたいと思い福島大学を選びました。当時様々な情報が飛び交い、本当に正しい知識はどれなのだろうと悩みました。研究することで正しい知識を身に付け、それを伝えたいと思い学んでいます。

山口研究室の放射線の研究は、先輩たちから引き継がれてきたもので、現在行われている廃炉作業に関わる研究です。今後原子炉建屋内の燃料デブリの取り出しや保管をする際に、その放射線量の量や種類を推定する技術を開発しています。大学院でもこの研究を継続し、将来はそれを活かす専門性のある仕事に就き、廃炉作業に貢献できる技術を残したいですね。



正しい知識で議論し、
伝えられる専門家に

教員からのメッセージ

Message

共生システム理工学類
メカトロニクスコース

田中 明 教授

医工学の分野で、主に人工心臓の制御法や、肌の映像から心拍や血行を解析する方法などの研究開発を行っています。共生システム理工学類はコンパクトながら、各コースの基礎の学修はもちろん、融合分野についても学ぶことができ、教員と学生との距離が近いことが特徴です。研究室配属が3年後期からなので、就活や大学院を視野に入れたキャリア形成を考える際に、指導教員と直接相談することも本学類のメリットです。

コースや研究室を考える時、得意不得意で決めることが多いかと思いますが、でも、何か興味をもって取り組みたいことがあるなら、それを「やる」という気持ちを大切にしてください。研究では、様々な課題と直面します。得意かどうかとは関係なく「やる」力が求められます。興味をもった分野で苦手が得意になる喜びを、ぜひ感じて欲しいと思います。



「やる」という
気持ちに込める学びの場